

令和5年度 行政改革審議会（外部評価） 議事録要旨

日 時	令和5年10月23日（金）午後1時25分～4時20分	
場 所	市役所 第36会議室	
出席者	委 員	（グループリーダー）齊藤由里恵、赤木禎行、熊谷忠信、高松淳也、山本美由湖
	担当課	【結婚記念品贈呈事業】 市民課長、届出係長兼務課長補佐、戸籍係長 【生活支援体制整備事業】 高齢福祉課長、高齢福祉課主幹、地域支援係長、地域支援係専門主査 【健康づくり環境整備事業】 健康推進課長、健康推進課主幹、健康推進係長兼務課長補佐、健康推進係担当
	事務局	行革・政策監、経営情報課長、経営情報課課長補佐、経営情報課（杉山専門主査、橋本、山田）
次 第	1 行革・政策監あいさつ 2 外部評価の進め方について 3 外部評価 （1）結婚記念品贈呈事業 （2）生活支援体制整備事業 （3）健康づくり環境整備事業 4 振り返り	

1 行革・政策監あいさつ

2 外部評価の進め方について

（事務局説明）

3 外部評価

（1）結婚記念品贈呈事業

・委員

それでは始めさせていただきます。まず、1事業目「結婚記念品贈呈事業」につきまして、事業説明を10分以内でお願いいたします。

（市民課説明）

・委員

ありがとうございました。それでは只今の説明について、ご質問をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。まずどなたからでも結構ですので、ご質問ある方お願いいたします。

- ・ 委員

一点単純な質問なのですが、令和4年度のエコバッグを令和5年度には無しにした、今までのアンケートの結果等も教えていただきたいのですが、エコバッグが今年はないじゃないかといったご意見あったでしょうか。

- ・ 市民課

特に廃止について、広報誌で周知するといったこともしませんでした。エコバッグが無くなったことについて、無いのですかというご意見はお1人だけありましたが、それ以外はありませんでした。

- ・ 委員

わかりました。

- ・ 委員

その他はいかがでしょうか。

- ・ 委員

戸籍について理解が不足しているものですからよくわからなかったのですが、安城市に住んでいる方が安城市で婚姻する場合は、安城市役所ないしは支所に来て届け出をされると。で、安城市に本籍があっても当市に居住されてない方は、他の市に提出されるということで、本籍がある安城市の方に書類が送られてくると。そうでない場合には、婚姻届が送られてくる場合はないという理解でよろしいでしょうか。

- ・ 市民課

本籍が安城市にある場合には、戸籍に記載をする必要がありますので、書類は送られてきますし、住所だけが安城市にある方についても、住民票の戸籍事項を変更する必要がありますので、それについても送られてきます。

- ・ 委員

少し理解が出来ないのですが、住所だけが安城にあって、他市に住んでいる方がいると思いますが。

- ・ 市民課

本籍が安城市にあって、他市に住んでいる人でしょうか。本籍と住所がありまして、本籍は戸籍の所在地になります。これは、ご夫婦が結婚した時に、どこを本籍地にするかということを決めていただく場所であって、そこは、戸籍の置き場所だけで実際に住んでいる場所ではないです。戸籍は血縁関係の証明であって、ご両親と未婚のお子さんで作られるもので、実際に住んでいない場所に置くこと出来るものが、本籍です。住所は、住んでいる場所に置いていただくものになりますので、それは本籍とは関係なく、実際に住んでいる場所になります。住所を記載するのが住民票、その血縁関係の証明をするものが戸籍謄本でありまして、戸籍が置いてある本籍地、住所が置いてある住民登録地、それぞれに婚姻があったことの書類が送られてまいります。

- ・ 委員

理解したつもりではおりましたが、一点確認したかったのは、本籍が安城にならない方で、他市に住んでいる方の書類は、安城市に来ることはないということですよというだけなのですが。

- ・ 市民課

書類は来ませんが、届出を出しに来ることはあります。届出はその人がいる場所であれば出せますので、例えば、思い出の場所に出したいという人ですと、たまたまよくデートに来た場所に出すとか、結婚式を挙げた式場に出すとか、好きな場所に出すことができます。

- ・ 委員

わかりました。ほぼ半数の方が安城市に提出していて、それ以外の半数の方が安城市以外に提出されています。これは、安城市以外で提出された方は、ほぼ全てその市に居住されている方であって、本籍が安城にあるので、送付してきたという理解でいいでしょうか。

- ・ 市民課

そうですね。多くの場合は、住所がそちらの市にあるけれど、本籍は安城市に残っているというケースです。

・委員

他にご質問はございませんでしょうか。

・委員

事前に質問と意見を伺っていましたが、本当に丁寧にしっかり回答されていて、これを読んだらよくわかりましたので、あまりこれ以上質問をすることは無いのですが、いずれにしてもデンパークをもっともっと安城の核として、PRしていただきたいなと強く思います。

あと、事前に質問はしていなかったのですが、安城市のPRという切り口で色々考えると、最近ららぽーと安城の情報がネットでもいっぱい出ています。三河地区初めてのららぽーとということで、非常に前評判が盛り上がっているし、今建設が始まったところです。だから、安城市のPRの観点でうまく活用出来ないかなと思います。ららぽーとの完成は、再来年の4月だということで、まだまだ先の話ですが、安城市として、ららぽーと安城をどのように市民の皆さんに活用していただくかとか、周りから沢山の人が来られると思いますので、そうした人達に安城市をどのように訴求するかとか、工夫されると良いと思います。安城市の色々な情報は沢山ありますが、例えば、ららぽーと安城に来た人に、こうした情報が見られるようにすると、安城市に対して理解が深まるのかなと思います。いずれにしましても、新しい施設が出来ますので、最大限活用していただけると良いのかなと思います。

・市民課

貴重な意見ありがとうございます。デンパークの方も積極的にPRして欲しいという愛のあるご意見をお聞かせいただいて、嬉しく思っています。ですが、市民課は、事後で受付することが多いので、転入された方に安城市の施設のご案内をお渡ししたりとか、結婚された方に何かご案内をお渡ししたりとかは出来ますが、安城市にお越しになった方に、安城市にはこんな施設があります、こういったサービスを使ってくださいといったご案内は、市民課として、やれるのですが、例えば、市外に住んでいる方に安城市はこんな素敵な施設があって、ららぽーともあって、生活が便利だから来てくださいとか、そういった今いない方に対するPRは市民課が得手するところではないものですから、そういったことについては、経営情報課ですとか、別の部署の方に情報提供していきたいと思っております。

- ・ 委員

他はいかがでしょうか。

- ・ 委員

今の委員が言われたご意見と同じで、先に答えていただきましたし、アンケートですとか率直に指摘もしていただいていますので、もうほとんど付け加えることは特にはないのですが、事務局に確認したいのですが、市民課の戸籍係からすると、今回デンパークのPRをやめるといった場合に、他でやった方が良いですよといったコメントというのは、どうすればいいでしょうか。このコメント票に書いておけばいいでしょうか。

- ・ 経営情報課（事務局）

コメント票には率直にお感じになったこととお書きいただければ結構です。直接市民課に対するご意見ではなくても、ご意見をいただきましたら事務局の方で担当課の方に伝えてまいりますので、ご記入いただければと思います。

- ・ 委員

本件に関係することですが、デンパークの入園券を配った場合に、配った瞬間に市民に費用が発生するのか、配ったデンパークの券が使われた場合に、使われたという連絡がデンパークから来て市がお金を払うのか、どちらでしょうか。

- ・ 市民課

事前にデンパークの入園券を購入しておりまして、購入済みのものをお配りしていますので、使う前ですね。もう渡した瞬間に費用が発生しているという考え方になります。

- ・ 委員

そうすると、使われなかったら、そのままコストだけが残っていくということでしょうか。

- ・ 市民課

そうですね。端的に言えば、半数程度が無駄になっているといえますか、

使われていない状態ということになります。ただ、市民特別入園券は期限を設けているのですが、このデンパーク入場券の市民課が購入したものについては期限を設けていません。ですので、事業を開始した年度の利用率はすごく低かったのですが、それから徐々に上がってきているのは、結婚して直ぐは使わなかったけれど、しばらく経ってから使うという方もいるという面もあります。ですので、お渡ししてから実際にどれくらいのスパンで使われているかということは把握していませんが、後から使われる部分を考えなければ、今の統計的には半数程度が無駄になってしまっているということになります。

- ・ 委員

他にご質問はございませんでしょうか。

- ・ 委員

このデンパークウェディングフォトというのは、このチラシを配ったことにより、デンパークの入園に繋がった数というのは多いでしょうか。

- ・ 市民課

実際にデンパークで働いている方に、ウェディングドレスを着て、写真を撮っている方が増えましたかということを知りましたが、その時は、特にそういった人を多く見掛けるようになったとか、そういったコメントはありませんでした。ですので、配ったことによる効果を実感していない状況です。

- ・ 委員

他にいかがでしょうか。では、私から質問をさせていただきたいのですが、この事業が、愛着を持ってもらい、そして、住み続けてもらいたいということが目的だとすると、この事業によって愛着を持つか、そして、住み続けるかということには繋がらないのかなと思います。その市で生活していく上で、日常的にごみの収集日とか色々な情報が入ってきますが、住み続けるためには、例えば、何かあった時に、どこに行けばいいのかとか、そういうことに繋がっていくということの方が重要かなと思います。市民課が言われたことで、今までやってきたことを総括して、分析をされているということは凄く評価したいと思っています。そこで、デンパークの入園券についてお聞きしたいのですが、その人達だけが使えるわけではないということと、あと入園

券をお渡しするに当たって、金券という扱いなのでいくつかサインをもらわなければならないと書いてありましたが、そういうのを手間だ、要りませんという方が今までいたのか、ということを教えて下さい。統計は取っていないと思いますので、ご存じの範囲で結構ですので教えてください。

- ・市民課

ありがたいことに、皆さんにお渡しすると、「ありがとうございます」と言って、とても嬉しそうに受け取ってくださいます。要らないという方はいませんので、そういった意味ではこの事業を続けてもいいのではないかなと思います。ただ入園券を配ることで、どんな事業効果があるのだろう、ということを疑問に思ったのが今回のそもそもの発端です。受け取られた方は、とても好意的に受け取ってくださいますし、特に名前等は書いてはいないのですが、記念品と分かるようにということで、ハートのシールをマークに付けていて、デンパークの方でも、それを持ってきてくださると「おめでとうございます」とお声がけするそうなのですが、それをする、と、たまに微妙な顔をされる方がいるそうです。それは、もしかしたら親御さんとかがもらって、使っているのかもしれない。

- ・委員

ありがとうございます。多分先程の委員の方からもお話がありましたが、婚姻とデンパークを掛け合わせようとする、例えば、婚姻しましたよといった声掛けがあると、デンパーク側から、何かスペシャルなことがあるとか、サービスがあるとか、そういうことも一つの方法なのかなと思いました。その辺りは、市民課の所管ではないとは思いますが、何といたしますか、市を横断的にやれることはあると思いますし、やっぱり各課にとどまらないこともありますので、先程もお話がありましたように、横の連携がすごく重要だなと思いました。また、金券なので取っていないと思いますが、それをまずきっかけに、例えば、入園券をプレゼントされてデンパークに来て、その後リピートをするといったことにどのように繋がるのかなと疑問に思いました。これはわかりますでしょうか。

- ・市民課

残念ながら、その辺りの統計は取ってはいないです。ただ、デンパークの事業計画の中で、恋人の聖地事業というものがあります。恋人の聖地繋がり、

その中の一環として、この市民課の結婚記念品が入っているのかなとは思いますが、リピートしているかどうかは把握していません。申し訳ございません。

- ・ 委員

もう一つ伺いたいのが、安城市のオリジナルデザインの婚姻届があるということですが、今どのぐらいの方がその婚姻届を使われるのでしょうか。

- ・ 市民課

オリジナルデザインの婚姻届出用紙と、この華やかなのが嫌という方が中にはいるのではないかなと思って、標準様式という、前からある普通のものもご用意しているのですが、記憶にある中では、標準様式をくださいと言われた方がお1人だけいましたが、あとは皆さんオリジナルの用紙を使われています。窓口に取りに来る人で、何枚かを控え用に欲しいですと言われる方とか、インターネットでダウンロードして来られている方とかもあります。

- ・ 委員

婚姻届を出される方の半分以上が安城市の窓口に出されると思いますが、窓口に出される方のどれくらいの方が、こちらの様式で出されるのでしょうか。肌感覚で結構ですが。

- ・ 市民課

オリジナル用紙がブームになっていますので、結婚情報雑誌等のオリジナルの用紙を使われる方がとても多いです。ただ、感覚的には、多くの方が安城市の用紙を使ってくださっているのではないかなと思います。

- ・ 市民課

先程婚姻届につきましては、何処で出されてもOKですよということでご説明しましたが、他の市に出されて、本籍が安城市、従前本籍、あるいは婚姻となって新しく本籍を置くところが安城市のものにつきましては、提出を受けた市町村から安城市に郵送されます。その中で、様式自体は安城市のものですが、他市で受けたものの写しが安城市に送られてくるということもあります。窓口で用紙を受け取られた方が、よその市で出されるという例もいくつかあると思います。そうすると、市民ではないですが、提出された役場の方に、安城市はこういうところなんだという意味で、PRになっているのかなと思います。

- ・ 委員

ありがとうございます。今は、婚姻届には色んなバージョンがあって、例えば、ジュエリーのお店がオリジナルで発行していたりとか、キャラクターとか、買うことも出来たりとか、凄く多様になっています。その中で、安城市に取りに来られる方の多くが、そのデザインのものを持って帰られたり、提出される方の多くがそれを使っていらっしゃるというのは、効果があるのかなと思いました。

ちなみに、ウェディングフォトですが、安城市内ですと、丈山苑も和装のウェディングフォトでよく使われていたりします。実は、私も丈山苑で撮ったのですが、写真屋さんが幾つか勧めてくれたりしていたり、あとはインスタとかでも多分皆さん見ているので、効果がいまいち見えないということはあるかもしれませんが、多分元々結構デンプークは、ある程度撮る層がいるのかなと思いました。やっぱりすごく良い風景になりますし、効果が確かに見えないうのかもしれませんが、そんなに効果がないわけでもないのかなと思います。

ただ今、残り5分となりましたので、評価シートのご記入も進めていただければと思います。その他、ご質問ですとか、ご意見がありましたらお願いいたします。

外部評価シートに記載いただきました人件費ですが、これはこの事業分ということでしょうか。それとも、受け取ったりといったことも算定しているのでしょうか。

- ・ 市民課

この事業に限ってのもので、お渡しする前の券にシールを貼ったりといった作業から、皆さんにお渡ししてその結果を記録したりですとか、そういった全ての事務作業の人件費になります。

- ・ 委員

見えない手間というか、直接目に触れないところで結構手間が掛かっているということでしょうか。

- ・ 市民課

個人的に、手間というより気になっているのが、宿直室でお出しになった方について、二重でお渡ししないようにその届出用紙のコピーを保管して、誰に

渡したかということを凄く厳密にチェックしています。婚姻届出用紙という、とてもプライバシーの強いものを、記念品を渡すためだけに管理することに凄く神経を使っています。支所でも受け取るようにしていますので、その辺りの管理が1番、神経を使っているところです。

- ・ 委員

はい。それではお時間となりましたので、質疑応答についてはここまでとさせていただきます。次に、皆さまにはここから3分間で評価シートのご記入をお願いいたします。評価シートは2枚となります。評価シート①を書けた方は、事務局へ提出をお願いいたします。評価区分については、対象事業の論点に対する評価区分の表を参考にしてください。

それでは、評価結果を皆さんから頂戴しましたので、これから事務局の方で集計をさせていただきます。この時間を活用しまして、委員の皆さまから評価のコメントをいただけたらと思います。お願いいたします。

- ・ 委員

ご丁寧に丁寧な説明ありがとうございました。大変よくわかりました。私の判断として、やはり当初立てた目的に合致するかしないかという観点と、効果、成果という観点から、こちらの方は廃止しても差し支えないかなと理解をしています。あと、お話を聞いて、皆さんからも出ましたが、こういう目的を達成するために横の連携は、特に我々企業にとっては非常に大切なことでありますので、ぜひ安城市役所の方々と連携していただけるといいかなと思いました。ありがとうございました。

- ・ 委員

オリジナル届出用紙を導入されて、事業の目的であるPRが市としてしっかり出来ていると思いますので、提案どおり廃止で問題ないと思います。

- ・ 委員

私も、廃止かなと思ったのですが、デンパークのPRという意義もそれなりにあるかなと思って縮小にしました。様子を見て、期限内に利用した分のみの負担とするとすれば、現在の市の財政からは、負担が半分位になるのかなというイメージです。あと、前のコメントにもありましたが、やはり特にデンパーク側と何か連携をしているような、していないような感じが見受けられました。

ので、その辺りの連携を主としてやるか、若しくは、デンパークではこういうことをやっていると、下の市民課が窓口という形でデンパークのPRとする方向性とする、関連性としては面白いと思います。市のPR効果と別にしても、全く廃止してしまうのはもったいないかなというふうに印象を持ちました。以上です。

・委員

ありがとうございました。チケットをもらった方は喜んでいるということでしたので、廃止としてしまうのは惜しいと思います。私は、縮小ということで、有効期限を設ければ良いと思いました。

・委員

はい。ありがとうございます。それでは集計結果の方を発表させていただきます。縮小が2名、廃止が3名でございましたので、廃止という結果とさせていただきますと思います。

例えば、委員の方たちからご意見がありましたように、安城市として、まずPRをするということについては、市横断的に出来ることが多分あると思いますし、市民課がこれまでやってきた取組、そしてそこに対する検証はすごく重要だったと思いますので、それをもう少し市横断的にお伝えいただいて、今後の政策にかなり有効になるのではないかなと思っております。市横断的な取組が重要だと、委員の皆さんからご意見をいただいたと思います。

もう一つ、縮小というご意見の中で、喜んでいるというご意見もありました。ただ、金券という扱いであることは、多分ご説明いただいた中で、かなり作業に神経を使ったり、色々なリスクを凄く感じると思いました。色んな所で保管をしておくことがやはり怖いと私自身も感じたところです。ですので、やり方を少し変えて、例えば、デンパークからの案内やリーフレットに何かを付けてもらおうとか、そういう形も出来るかもしれませんし、他の形についても市横断的に検討して、どこの課で直接お渡しするのが効果が高いのか、それとも違うタイミングがあるのかとか、いくつかご検討いただけるのかなと思いましたので、またここでいただいた意見を参考にしながら事務事業の方を進めていただきたいと思います。

それでは、第1事業目、結婚記念品贈呈事業につきましては、以上とさせていただきます。ありがとうございました。

（２）生活支援体制整備事業

・委員

それでは２事業目の生活支援体制整備事業を始めさせていただきます。では、まず１０分間で事業の説明をお願いします。

（高齢福祉課説明）

・委員

それでは、皆さまから質疑を承りたいと思いますので、挙手にしてお願いいたします。

・委員

事前の質問にも出したのですが、この目的は非常に重要で、介護人材の人材不足に備えるという非常に重要な取組だと思うのですが、そういう観点から、実際にこの研修受けた方がそういう仕事に就いたのかとか、どうなったかというところが非常に重要なと思います。事前に質問をしまして、研修修了者を雇用した事業者からの報告を一応もらうというお話になっていますが、具体的な数字が本当は必要で、目標自体も本当はそこを目標にすべきなのかなと思います。そういう意味からすると、その人材に研修を受けた方がちゃんと繋がったかどうか、というのは分かるのでしょうか。

・高齢福祉課

ご質問ありがとうございます。仰るとおり、介護人材としてどれだけの修了者が事業所に繋がったか、ということを確認することは重要だと思います。過去に、平成２９年、３０年、３１年と年間１名程度が事業者につながったことは把握しております。これにつきましては、たまたま事業者から雇用をしたことを報告があったケースをカウントしている形です。実際、事業者にどれくらい繋がったというのは、例えば、試みで短期間働くことを繋がったとっていいのか、それとも労働者としてやっぱり長期的に働いてもらうことが繋がったというのか、やはりこの把握の仕方が難しい部分がございます。これまでは数のカウントがし難かったのが現状です。今後は把握の仕方を考えていきたいと考えております。

- ・ 委員

ありがとうございます。いずれにしろ、こういう研修を受けっ放しというか、その後がよくわからないということになると、本来の目的の人材の養成に繋がったことが出来ても、数字でわかりません。そうすると、そこで欠けている事に対して、改善とか具体的な対策もなかなか打てない。そこが非常に重要だと思います。そういう意味で今回の評価シートを見ると、シートの中で左下に生活援助の担い手が不足しているということで、シルバー人材センターから研修再開の声が上がっているということで、これは、非常に重要だと思います。ニーズが出ています。シルバー人材センターが、安城市の介護要員として募集しているということですね。そうすると、例えば、これシルバー人材には過去の研修の受講者はどのぐらい採用されているのでしょうか。それも数字がないのでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

そうですね。シルバー人材センターに繋がっていることについて把握はしています。ですが、この間3年位事業を中止していたものですから、その間にシルバー人材センターから再開して欲しいという要望はいただいております。申し訳ございませんが、正確に数は把握していません。

- ・ 委員

そういう意味では、シルバー人材センターは、欲しいということでそういう要請をされているわけです。研修をやって欲しいと。そうすると、逆に、じゃあシルバー人材センターに、この研修を受けた方を積極的にどう採用してくれるのですかとか、そういう宿題を出して、双方で研修を受ける。研修を受けた方が、ちゃんとそこに人材として繋がる。受け手のシルバー人材センターも申し出をした以上は、そういうところまで、きちんと約束なりフォローする。もし何か足りないことがあったら、シルバー人材センターから、市にこういう観点で改善して欲しいとか、そういうのをどんどん出してもらおう。そことうまく繋がって、どういう教育や、人材を育成しないといけないかといった、具体的ななところにまで入っていく必要があるかなと思います。以上です。

- ・ 高齢福祉課

シルバー人材センターの方に、どれぐらいの修了生が従事出来るようになっているのかということ、今後考えていきたいと考えています。あと、私ども

の課題として、今後地域を支えていただく若い世代の介護人材の増やしたいと思っておりまして、今回その評価指標を挙げております。

- ・ 委員

他はいかがでしょうか。

- ・ 委員

ご説明ありがとうございました。切実なところが理解できたといいいいますか、今の大変なご事情はよくわかりました。つい先日まで親の介護に携わってききましたので、逆に言うと、そういう状態になるまで一切そんなことに興味がなかったというのが実情であります。まずそこが一つです。

あと、今、介護の方は非常に人材不足であるということで、こういった介護に関連する事業所が人手を募っても、ほとんどそこに人手が入らないという話だと思います。そこに、こういった研修を受けることによって、より勤めやすくなるというようなことが、本当にあるのかなというのが1つの疑問です。

それからもう一つ、そもそも59時間の研修を受けないといけないところが、3時間の研修で済むというのは、質的にどうなのだろうなど。これは単純な疑問です。

- ・ 高齢福祉課

単価が訪問型サービスは安くなっておりまして、研修修了者が就職を考えるとすると、やはり集まり手が少ないと思います。現在、需要はあるけれど、人材がいらないということで、資格を持った専門職の高い方がその安い仕事に従事していて、事業所の経営効率が悪化している問題がございます。ですので、この研修修了者がその仕事に就いてもらうことで、専門性の高い人が本来の仕事が出来るようにして、事業所の効率がアップすることによって、キャリアアップと介護業界全体の盛り上げを期待しております。

あと、カリキュラムが短い問題ですが、これまでは、民間のノウハウを基に安城市が考える研修内容でやっておりましたが、民間のノウハウを基に国の研修内容に近付けて内容が濃いものにしております。研修の終了後には、ステップアップ講座として、国の研修に繋げる予定もございますので、いろいろなニーズに対応できるよう研修内容を変えていきたいと考えております。

- ・ 高齢福祉課

質的なご質問について一つ補足させていただきます。今まで、安城市独自の研修ということで、11時間のものを行ってまいりました。先程申し上げたように、受講者が少ないということで、一部の事業者に確認を取って、現状のこの時間でどうですかということを確認したところ、基本的には、自分の事業所で育てるということで、実際50何時間であろうが11時間であろうが、さしてそこまで変わらないという意見がございました。厚労省が定めている「介護に関する入門的研修」という中に、基礎研修が3時間、入門研修が18時間あります。安城市の研修は、11時間の独自のものを受けていただいても、研修に関して特にプラスになることはない、要は、他の研修に対して派生するものはないのですが、こちらの研修を受けていただきますと、少なくとも入門的研修に関して、この基礎研修の3時間を短縮することができる場合があるということです。他の研修に繋がるということで、愛知県で行っている入門的研修も、一応無料で行うことができます。現状これが正解かはわからないのですが、まずは短くして、受けていただくという方向性で、今回進めていこうかなと考えております。以上です。

- ・ 委員

他はいかがでしょうか。

- ・ 委員

私も質問で答えていただいたことの関連ですが、愛知県と知立市の取組の中で、65歳はどれ位いますかとお伺いしたところ、知立は24名中15名で、愛知県は平均が50名代後半ということだったのですが、これは非常に安城市の目標とするところかなと思います。これらの取組と安城市の取組の違いというのか、具体的な研修の内容とか、PRというところで、どんなところに違いがあると考えますか。

- ・ 高齢福祉課

私どもも募集の方法を改善する必要があると思って、知立市にお伺いしたのですが、知立市は若い世代の取り込みに少し成功しているようなイメージがあります。聞いたところでは、LINE等のSNSを使って、若い世代の研修の受講者を確保できたと聞いております。私どももこれからその辺りの周知方法も考えていきたいと考えております。

- ・ 委員

あと、簡単な質問なのですが、愛知県の研修を受けると、愛知県下どこでもこの仕事に従事できるということでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

こちらの例に出した入門的研修というものですが、スライド資料で見ますと、この下から2つ目が入門的研修というものになっています。現状こちらを受けても、訪問介護の生活援助中心型で働くことはできないということになります。ただ、こちらを受けることによって、この「生活援助従事者研修」の一部のカリキュラムが免除されるという形になっています。安城市の場合ですと、このあんジョイ生活サポーター養成研修を受ければ、この訪問介護の生活援助中心型で働くことができるという作りになっております。

- ・ 委員

そうすると、愛知県の研修だけではダメで、愛知県が行う研修にプラス働きたい市町村の研修を受けるという形ですね。この訪問介護の生活援助中心型というのは、それだけをやって、基本にご飯を食べていけるという性格の仕事なのではないでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

私も直接この仕事に携わっているわけではないのですが、この事業者の方に聞くと、登録型ヘルパーといって、時間でやっているという方が多いみたいです。これ単体ではおそらく厳しい、おそらく何か他の副業だとか、子育てしながら空いた時間に働くとか、そういった類のものになると思います。基本的には、この訪問介護というのは、生活援助中心型しか出来ないのですが、その上の介護初任者研修とか、これは旧ヘルパーなのですが、こちらであれば全ての仕事に従事出来ますので、おそらくそこからなるのではないかなと考えております。

- ・ 委員

研修の周知方法として、小中学校に募集チラシを配布するという案ということですが、どうして小中学校なのかなと思いました。将来介護職を目指す若者向けだったら、高校の方に行ってもいいし、子育てにひと段落が付いて就労を

考える保護者がそんなに多いのかどうか。子育て中でも、仕事をされている人の方が多いと思うのですが、この辺りがターゲットなのだろうなと思いますが、なぜ小中学校なのでしょう。

- ・ 高齢福祉課

そうですね、今仰ったとおり、実際に小中学校の保護者の方であって、かつ、その子育てが、終了というわけではないですが、お時間を取っていただけるかなということで、小中学校に配っていかうと考えておりました。

- ・ 委員

他にございませんでしょうか。

- ・ 委員

受講者、特に若い人を増やす工夫というかアイデアとしまして、受講された方で、介護職に就かれた方を具体的に紹介することが、受講しようかなという気にさせるには非常に有効な手立てだと思います。よくリクルート活動で、その会社に入って、新人がどういう仕事やっているのか、どういうふうに活躍しているのかというのを知らしめるのは、非常に遡求効果があります。この研修の受講者をぜひ増やしたい、若い人を増やしたいと思うのであれば、そういう活躍されている方をどんどんPRするというのも一つの手かなと思います。

- ・ 高齢福祉課

ありがとうございます。現場で直接働いている人の声を聞く機会を設けるといことですね。

- ・ 委員

声を聞くこともありますが、それだと限られてしまうので、そういうことをホームページなり、媒体にのせて、こういうのを受講しようと思われる方の沢山の目に触れるようなところに見られるようにしておくといいのかなと思います。

- ・ 高齢福祉課

ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。

- ・ 委員

他はどうでしょうか。

- ・ 委員

先程の質問に関連してですが、安城市のホームページのページビューはどの位あるのでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

過去に、私どもの広報課が確認しているのですが、正直1,000に届いていなかったと記憶しております。実際に周知はしていくのですが、当然ホームページ以外の他の媒体でも行っていかなければならないと考えております。

- ・ 委員

その他はいかがでしょう。それでは、私からも質問をさせていただきたいと思います。まず、この事業の1番の目的としては、安城市内で今回の訪問介護、生活援助中心型の担える人を増やしたいというところでよろしいでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

広く申し上げますと、安城市内で働く介護人材を増やしたいと考えております。その中での課題として現在ニーズは沢山あるのですが、実際は人材がいなくて、その資格を持った専門性の高い人がやらざるを得ない。だから、今回の生活援助をできる人材を増やして、そちらに充当して、資格を持った専門性の高い人は本来の業務に就くことによって、介護業界全体がうまく回るようにすることが目的でございます。

- ・ 委員

わかりました。ありがとうございます。多分色々な目的があると思いますが、例えば、介護人材、本当だったら専門職を増やしていきたいのだけれど、色々なことが関係してきますので、そこに到達するには時間が掛かる。そうすると、この生活援助で、少し訓練すれば出来るようなことを増やしたいということだと思います。例えば、今民間企業でも副業を進めているところも沢山出て来たと思います。説明の中で触れていたと思いますが、安城市の特徴としては、比較的他の市と比べると、若者人口が多いというところだと思います。愛知県内

でも高齢化率が低い方ですし、全国的に比べると更に低いと思います。だから、若い人達で、ここを担えるような人達は沢山いるのかなと思います。そうすると、少し語弊があるのかもしれませんが、手っ取り早い方法としては、特に、若い人達がいる企業が沢山あると思いますが、副業としてこういったことを勧めることもあろうかと思います。その辺りについて、何か考えたことはありますか。

- ・ 高齢福祉課

そういった視点はありませんでしたので、取組の参考とさせていただきたいと思います。

- ・ 委員

すみません。あと残り5分となりましたので、皆さん評価シートの記入を進めていただきながらお願いいたします。

副業は、実際にもうやっている方もいますので、先程ご意見が挙がったように、働き方のスタイル、こういうところでこういう事を少し取り組んでいくとか、私でも出来るのかなと思えるようなPRの仕方も、方法の1つかなと思いました。

もう一つ、先程委員からお話がありましたけども、実際に家族の介護に直面して、介護に対する重要性とか、大変さ、プロの力を感じる事が多分多くあるのだと思います。家族に対しては、例えば、第三者にやってもらった方がいいのかもしれないということもあると思いますので、介護している人達もうまく人材になり得ること、そして、自分の家庭の中でやるということでも良し、外に出てやることも出来るし、この研修の意味において、大きく意味を持つといいのかなと思いました。

ですので、多分この事業を進めるにあたっては、戦力となり得る層、実際に経験をしていて、もしかするとその戦力になる、若しくは自分の家庭の中で生かせるとか、多分パターンがいくつかあるのかなと考えていて、そうすると、同じ事業の中でも対象ごとにアプローチの仕方はいくつかあるのかなと思います。今回、縮小にシルバー人材センターのことが書いてあるのですが、シルバー人材センターも1つのターゲットだと思います。だから、どちらかに当てないといけないということではないのかなと思っていたのですが。何かご意見がありますでしょうか。

- ・ 高齢福祉課

仰るとおり、受講者のメリットとしては、事前の質問にも書きましたが、お金を掛けずに自分の能力を高められるということが挙げられると考えております。確かに対象が違って、本格的に働きたい人、家族の介護のために知識を身に付けたい人、と色々な目的があるとは思いますが、今年度やるものに関しては、介護に触れやすくするための、興味を持ってもらった人が直ぐに入っていくための研修としておりますが、今後、ターゲットを絞って回を分けてやることも1つの選択肢として見据えていきたいと思っております。

- ・ 委員

最近、大学生の中でも、こうした生活介護のアルバイトをしているといったことをちらっと聞くようになりました。うちの大学は、介護とか福祉系ではありませんが、多くはないですが、そういった話を聞くようにはなっています。だから、民間事業者は、そこに担い手として開いているところもあるのかなと思いました。

それでは、お時間となりましたので、質疑応答についてはここまでとさせていただきます。皆さまには、3分間で評価シートのご記入をお願いします。評価シートは2枚、評価シート①が書けた方は事務局に提出をお願いいたします。評価部分につきましては、対象事業の論点に対する評価部分の例を参考にしてください。

それでは、評価シート①の方を回収させていただきましたので、評価結果の方をこれから事務局で集計させていただきます。この時間を利用しまして、委員の皆さまから評価のコメントをいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

- ・ 委員

先程申し上げましたが、何といたしますか、大変喫緊の課題というか、これから非常に重要な取組であることは理解が出来ました。仰るとおり、間口をどう広げていくかということが非常に大事であると思いましたので、要改善を選択させていただきました。先ほど委員が仰ったような、間口をぐっと絞っていった、ここの層にPRしていくというよりも、手間が掛かることになる可能性もありますが、若い世代には、当然のことながら、新しい手法、SNS等を使ったよりプッシュ的な手法を使ってアプローチをしていくということもあります

し、シルバー人材の介護に興味がある層、お父様やお母様がいて間近に介護を控えた世代それぞれに、ある程度手間を掛けずに何とかやっていくような方策があればいいなと思います。今具体的なアイデアだと申し上げられないのですが、そういったことも大事だと思いました。ありがとうございました。

・委員

どうもありがとうございます。非常に重要で、必要な事業ですので、ここで色々検討されているような募集の方法ですとか、研修会の見直し、計画的に見直しをしていただいて、しっかり推進していただきたいと思います。そういう意味で、要改善を付けさせていただきました。

・委員

ご説明ありがとうございました。私も結論としては、要改善を付けさせていただきました。齊藤委員のご質問にもありましたとおり、人数を確保すること自体が大事だということは変わりがないと思います。ですので、シルバー人材センターからの引きがあるというのであれば、そちらの方面ともきっちり連携することと、おそらく単純な人数としても、全体的な人数が多いと思いますので、研修修了者の人数そのものを確保した方がいいかなと思います。

一方、若者の方は、やはりSNSを使うと。これは福祉だけではなくて、他の観光とか、いろんなところにSNSをうまく使う、うまく使う方法自体が難しいとは思いますが、知立市が成功したということですので、それがいいかなと思います。そのようにやるのであれば、小中学生よりは、やはり高校生とか、大学生とかですね。大学生でしたら広く使われていますので、うまくやれば今後より興味を持ってもらえるのかなと思います。

小中学校に行ったりしてアプローチをするのも良いとは思いますが、特に、自分の意志で動けるというのはやっぱり高校生や大学生からだと思いますし、SNSも知らない可能性が高いので、そちらの方もご検討されたいのかなと思います。以上です。

・委員

私も要改善に丸を付けました。募集の仕方についても、紙のチラシだと若い人はあまり見ないらしいですので、SNS等での展開が必要なのではないのかなと思いました。

- ・委員

それでは、集計結果が出ましたので発表させていただきます。要改善が5名ということで、要改善を評価結果とさせていただきたいと思います。ただ、評価内容にある内容だけではなく、もう少しアプローチを多様にすることが出来るのではないかと、SNSをどのように使うのかはすごく難しいところかとは思いますが、市の他の課との連携を通じて検討をしていただきたいところだと思います。多分、色んなアプローチが考えられるのかなと思いますし、多分民間事業者の方でも独自に研修をしたりとか、こうした人材を確保しようとしているところもあるかと思いますので、そこに任せることが出来るならそういう方法もあると思います。市として何が必要なのか、市じゃないと出来ないことも考えていただくのがいいのかなと思います。考える時間も沢山取られるわけですので、ある程度効率よくやることも重要だと思います。皆さんが少ない人数でやっていることは重々承知していますので、その中でこういった効果が出るのか、どういう方法をこれからご検討していくのか、自分たちの事務の内容を増やさないとといったところも重要かと思っていますので、その辺りも検討しながら進めていただければと思います。

それでは、第2事業目、生活支援体制整備事業については以上とさせていただきます。ありがとうございました。

(3) 健康づくり環境整備事業

- ・委員

それでは、3事業目の健康づくり環境整備事業を始めさせていただきます。事業説明を10分以内でお願いします。

(健康推進課説明)

- ・委員

ありがとうございました。それでは、ただ今の説明につきまして、ご質問のある方お願いしたいと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いします。

- ・委員

当社での計測会の写真を例に出していただいてありがとうございます。当社も5年ぐらい前からですが、「健康経営」ということで、健康を中心に据えて計

画していきましょう、それで、皆さんが健康になること、人に投資をすることによって、経営の効率を上げていきましょう、といったことをやっています。安城市でも、「健幸」ということを挙げられていて、健康にどんどん重点を置いてやられていることについて大変尊敬をしていますし、いつも素晴らしいなと思っております。

今、この全体の絵を描かれていましたが、2年ぐらい前から企業に「健康経営」を打ち出していて、今企業でもやられています。そういった意味で、これは大分進展していると思っていたのですが、あまりまだ浸透してないのでしょうか。

- ・健康推進課

やはり、お仕事のお時間を割いてまで、ということがきっと難しいのではないかなと思っています。今回もこのようにお声掛けをさせていただくと、お申込みをしてくださったりですとか、測定会にお呼びいただかなくても、測定機器の貸出にお申込みをいただいくとも少しずつ増えてきておりまして、私どもが出向かなくても、自分達でやってくださるというところもございます。

- ・委員

件数としては、大分増えてきたという感じでしょうか。

- ・健康推進課

貸出は増えておりますが、測定会自体はやはりそんなに沢山は増えていないかもしれません。

- ・委員

他のご意見はいかがでしょうか。

- ・委員

企業との連携に関連した質問ですが、健康診断の連携は可能ですかという質問をしました。今は連携を図っていないということですが、この測定会でわかることと、健康診断とかその後の特定保健指導で分かることと、どのように項目の違いがあるのでしょうか。

- ・健康推進課

この測定会で用いている機器は医療機器ではなくて、健康に関する気付きに使っていくようなものです。健康診断を受けられているのであれば、そちらの数値から判断できることが沢山ありますので、そちらをまず導入していただいて、その後の特定保健指導等もあります。そちらの土台に載ることが出来ずにいるような場合に、後押しをしていきたいなと考えております。健康診断を受けていただける方はいいのですが、なかなかそういったことに関心が向かない方にこういった測定会ですとか、その他諸々こちらの啓発事業等を使って、何かしらご自身の健康に目を向けていただけると、きっかけになっていくかなと考えております。

- ・委員

意図はわかるのですが、なかなか自分の会社の健康診断ですらまともに対応しない方が、更にそういうものに対応するのかなという気もします。ただ、リソースに限界があるということで、基本的に勤労世代に参加してもらうには土日開催するのがいいけども、当然それは市役所の方のマンパワーの問題が出てくると思います。基本的には、健康診断の方がよりわかりやすいので、勤労している方々はそちらにお任せして、そうでない谷間というか、そこからこぼれてしまう人をターゲットとした方が良いのではないかと思います。もちろん、理解がある会社もあると思いますし、それを把握出来ればいいと思いますが、そこにあまり注力し過ぎない方がいいのではないかと思います、いかがですか。

- ・健康推進課

現在、実際に健康づくりの計画を立てている中で、市内の企業にヒアリングに行ったりもしていますが、その中で参考となるような企業の取組を聞いたりすることもあります。そういったものは、事前に横展開できるといいですね、というご助言もいただいたりしています。まだ考えている段階ではありますが、そうした取組は、是非何かしら広めていけるようなことも一緒に考えていければいいのかなと思っております。

- ・委員

他にいかがでしょうか。

- ・ 委員

活動実績のところを見ますと、アンフォーレとか歴史博物館とかの数の桁が違うのですが、これは、イベントの中でブースを作って行ったということでしょうか。

- ・ 健康推進課

そうです。

- ・ 委員

私も勤労世代ですが、そういう何かのついでにやっていると、参加をしやすいいと思います。こんなことをやっているのだなという、知るきっかけにもなると思いますし、イベントに行ったついでというのは、とても親しみやすいなと思います。勤労世代には、こういうアプローチで広げると良いのではないかと思います。

- ・ 健康推進課

ありがとうございます。

- ・ 委員

その他にいかがでしょうか。

- ・ 委員

事前の質問にしっかり回答していただいて、ありがとうございました。企業は今健康に対して、非常に力を入れています。ですので、そういう意味では、先程も出ましたが、企業とのタイアップ、各企業では結構工夫していろいろやっていて、非常に良い活動がやられています。そういうのがあれば、それを他の企業に紹介をしたり、横展開していったら、そうすると活動をどんどん盛り上げていくことが出来るかなと思います。

企業の観点でいうと、今やれていない企業も本当はやりたいのだと思います。やりたいけれど、やれない理由は色々あると思いますので、そういうところにもうまくアプローチ出来るといいかなと思います。中小企業にも健康についての担当の方がいますので、だからそういう担当の方にうまくこういう情報が伝わって、今まで出来ていない、やれていない企業にもどんどんそういうことを広げていけると、活動が進化していくかなと思います。工夫をお願いします。

・委員

私の方からも質問をさせていただきたいと思います。まず、健康測定会の目標として何を目標とするのかということですが、健康に関心を持つ層を増やすということとされていて、何をどうすればいいのかということが凄く抽象的なと思いました。例えば、日本においては、市町村国保、協会けんぽ、各健康保険組合等がある中で、この健康に関する取組みは、各保険者が実施していることが多いと思います。この活動指標としては年間回数を挙げていて、これは、多く開催すれば、多くの人に周知出来るだろうという意味が込められているのだと思います。一方、成果指標として、活動指標の②については、国保で取ったデータを基に人数を挙げています。これは、全体的なデータを取りにくいということが理由だと思いますし、それは理解しています。国保に加入しているのは、多分無職の方が1番多いと思いますし、その方達というのは、元々どこかの保険から移動して来た方々が多いと思いますので、ある程度高齢者層だと思います。そうすると、この数字を上げる努力をした方が良いという理由でその数字にしているならば、例えば、農協とか協会けんぽとか、他の保険に入っていない方がメインになるとと思いますので、そこへのアプローチが重要だと思います。実際の数字に跳ね返ってくるかは別だと思いますが、やるべきことというのは、意外とそこまで難しいことでもないのかなと思います。ただ、農業者ならJAのイベントとか、こういう人たちをターゲットにするならこういうことをして、といったことを考えると、そこまで難しいことではないのかなと。

これが多くの人に周知する政策かどうかですが、片や一方では、少しターゲットを絞ったところに成果目標がありますので、ここをどのように捉えるべきなのかが私自身がわかりませんでした。その辺りはいかがでしょうか。

・健康推進課

この事業を始めて今の形になったのは、平成29年度からなのですが、平成21年ぐらいから色々な形に変化をしながら、ずっとやってきております。全体を見ながら紆余曲折してきたところがありますが、その中でもやはり健診の中での安城市は糖尿病の方が多かったり、保健指導にかかる方を少し支えていかなければいけないということで、少し若い世代にクローズアップをしています。全体に向けてやるといっても、なかなか数値を全体で上げるところまでは実際のところ難しいということで、そんな中で勤労世代に何かしら出来る部分をやっていこうということで考えているところではあります。

・委員

ありがとうございます。若い世代とか勤労世代とか、そこをターゲットにするなら、例えば、保護者が参加する小中学校の運動会とかですと、運動にも絡められます。若年の勤労者が集まるようなところがあるのかなとも思っていて、イベント事での集客、参加者数は多いことがわかっていますので、そうした所でやるのも一つかなと感じたところです。受入れ先の問題もありますので、そこがマッチングしない場合もあるかと思いますが、こうしたことをやって、参加者が沢山いて、後々の効果にも繋がってうまくいけばハッピーだと思います。

沢山やらなければいけないし、やろうとしていることはわかりますが、ただ、市が何故そこでやるのかといったメッセージ、どういうメッセージを持ってこれに取り組むのかということが、凄くぼやけてしまっているのかなと。今ご回答いただいたみたいに、これで、どこに、何を伝えたいのかというメッセージが、もう少し市民の方にも伝わるとより良いのかな、と思いました。

事前のご質問の回答で、4番目のご質問のところの1番目の回答で、意識が低い方にはアプローチを何をやっても難しい、というようなご回答がされています。難しいというのも、多分そうなのだと思いますが、こういうところも言葉が足りないかなと思いました。ここも、難しいからこそ何をやるのかを考える一つの場合でもあります。何をやっても届かないのだけど、それでも届くようにこういう取り組みをしてきた。けれど、なかなかやっぱり届かない。一生懸命頑張っていれば良いというわけではないですし、内部では分析をしているのかもしれないですが、そうした次に繋がっている感覚がこちらに伝わってこないということで、少しメッセージが伝わり難いところがあるのではないかなと感じました。

他にご意見いかがでしょうか。

・委員

事前に資料を見せていただいて、この資料はとても良いなと思いました。こういうのはあまり見たことがなかったです。これ素晴らしいなと思います。是非、こういうのをもっともっと見えるところとか、うまく工夫されると良いと思います。とても良いと思います。ちょっとした時間があれば、簡単にできる運動がいっぱいあります。配ったら職場でも出来る運動がいっぱいありますので、素晴らしいなと思いました。

・委員

資料で付けていただいたものは、多分沢山良いものがあるのだけど、どこで手に入れるのか。あとは、実際手に入れた人はもしかしたら使っている人もいるし、そんなに使っていない人もいたりして。本当は手にしていない人が、もしかしたら必要な人としているのかもしれないですし、といったことですね。

・委員

良い資料をたくさん持っていると思いますので、こうしたものを活用すると良いと思います。

・委員

そうしましたら、皆さまの方でご評価シートの記入を進めていただきたいと思います。もう少し時間がありますが、担当課から、何かこちらに対してご質問とか、言い足りなかったことがあれば補足していただければと思います。

それでは、皆さまから評価シートを回収させていただきましたので、集計している時間を使いまして、皆さんからこの件に関しまして、コメントをいただきたいと思います。

・委員

私は個人的な思いとしては、皆さまがどれだけでもき苦しんでいるのだろうなということを思っています。というのも、我々も「ホワイト500」に4年認定をされまして、やっているにもかかわらず、どれだけ保健師の言うことを聞かない人がいるか、これだけ毎日続けていても、というところがあります。ですので、特に、こんな広い世界で色々な事を考えながらやられているご努力というのは、本当に頭が下がる思いがします。さらに、市長が大きな方針「健幸」という方針を出されて、それにどう対応していくのか、将来の医療費の増大、介護が必要な人をどんどん下げていこうという、大きな目的の中でやられていることに頭が下がります。

ですが、先の介護と一緒に、じゃあ具体的にどのように広めていけばいいかというアイディアはないのですが、今みたいな地道な努力を、さらに色々な方にターゲットを絞って注力していくことは必要だと思います。ですので、意見としては、要改善とさせていただきました。具体的なアイディアがなくて本当に申し訳ないのですが、ぜひ頑張ってください。

・委員

安城市にとって大変重要な事業でもありますし、安城市が特に誇れる事業でもあるのかなと思います。「健幸」ということで、アピールできる事業かなと思います。そういう意味で今検討を予定されている、より効果的なアプローチをしっかりと実践していただいて、推進をお願いしたいと思います。そういう観点で、要改善と判断いたします。

・委員

保健師の言うことを聞かないと言われますと、若干耳が痛いなと思って聞いていたのですが、それはともかく置いておいて、やられていることは当然大切なことだと思いますが、やはり現状マンパワーの限界もあると思います。ですので、企業へのアプローチというのは、いわゆる測定会そのものに拘らなくても、先進的な企業の情報を紹介するといった情報の仲介者みたいな形だとか、もちろん機械だけをお貸しするとか、そういう形でもいいのではないかなと思いました。むしろ、そちらよりも、先程他の委員からも指摘があった通り、やはりイベントの集客というのはかなりありますので、そちらの方の注力された方がより良いのかなというような印象を受けました。ですので、要改善だけでも、企業での開催回数を増やすよりも、イベントの方の回数を増やした方がいいのではないかなという意見になります。ありがとうございました。

・委員

私も要改善かなと思いました。回数より、中身を工夫されると良いのではないかと思います。平日の昼以外に開催するのは難しい点も多いのだとは思いますが、そこを何か工夫してもらおうと良いと思いました。

・委員

それでは集計結果がまとまりましたので、結果を発表させていただきます。要改善が5名ということとなりました。評価結果としましては、要改善という結果とさせていただきたいと思います。

委員の皆さまからは、大変重要な取り組みであるというコメントがありました。ただ、内容として、アプローチの方法を検討するということも必要なのではないかなというお話もあったかと思います。健康づくりを自発的に始めるきっかけ作りが目的ですので、やはり多くの人への周知も必要だと思いますが、届くべ

き人へのアプローチ、届けたい人へのアプローチというところも必要だと思います。ですので、より良い事業になるよう、またご検討いただいて、ただ、企業と一緒に取り組んできたことですか、今までやってきたこと、私たちの方にもご提供いただきましたが、資料も凄く良い内容だというような評価もあったかと思いますし、色んなソースを持っていますので、今度はそこをうまく活用するかといったこと、どんな方法がいいのかということをもたご検討いただければと思います。

それでは第3事業目、「健康づくり環境整備事業（健康測定会）」につきましては、以上とさせていただきます。

本日の外部評価をこれにて終了させていただきます。